

定時制・通信制教育の今後の在り方について

報 告 書

平成19年3月

定時制・通信制ステップ・アップ協議会

香 川 県

目 次

| | |
|---------------------|----|
| はじめに | 1 |
| 本県の定時制・通信制課程の現状と課題 | 2 |
| 1 定時制課程 | 2 |
| (1) これまでの経緯 | |
| (2) 現状と課題 | |
| 2 通信制課程 | 5 |
| (1) これまでの経緯 | |
| (2) 現状と課題 | |
| 3 再編に関するこれまでの検討状況 | 7 |
| 定時制・通信制教育に期待される役割 | 8 |
| 定時制・通信制教育の今後の在り方 | 9 |
| 1 定時制課程 | 9 |
| 2 通信制課程 | 12 |
| 3 学校評価に基づく開かれた学校づくり | 13 |
| 将来に向けて | 14 |

| | |
|-----|-------|
| 資 料 | 15～38 |
|-----|-------|

はじめに

定時制課程及び通信制課程は、教育の機会均等の原則のもと、昭和 23 年に制度が発足して以来、主として働きながら学ぼうとする青少年に、後期中等教育の機会を保障する上で大きな役割を果たしてきた。

今日、わが国においては少子高齢化、国際化、情報化、科学技術の発展、産業構造や雇用形態の変化、価値観の多様化など社会が急激に変化している中、定時制・通信制課程においては、生徒の就業形態や学習歴が多様化するとともに、定時制課程では生徒数が減少している。

定時制・通信制教育は、こうした変化に柔軟に対応して、本県の高校教育の中で積極的に役割を果たしていく必要があると考えられる。

文部科学省においては、多様なニーズに対応する教育の場として定時制・通信制課程の改善・充実を図るため、「定時制・通信制ステップ・アップ事業」が実施され、本県では、平成 17 年度及び平成 18 年度、同省からの委嘱を受けて本協議会が設置された。

本協議会では、2 年間にわたり生徒の就労状況や通学状況などに関する調査や、学校生活に関する意識調査、他県の定時制・通信制高校の視察などを踏まえて、定時制・通信制教育の役割や今後の在り方などについて幅広く議論を重ねてきた。 (資料 1、2、3 参照)

昨年 3 月には、1 年目の研究内容を実践研究報告書としてとりまとめ、本年度はこれを踏まえてさらに議論を深めた。

本報告書は、本県の定時制・通信制教育の今後の在り方について提言するものである。

本県の定時制・通信制課程の現状と課題

1 定時制課程

(1) これまでの経緯

本県における定時制教育は、勤労青少年に後期中等教育¹の機会を提供するため、昭和 23 年に新制高校の発足に合わせて開始された。

生徒数は、昭和 28 年の 7,275 人を頂点に昭和 30 年代には 6,000 人～5,000 人台で推移したが、昭和 40 年代になると、全日制課程への進学率の上昇や青少年の大都市圏への流出などにより減少を続けた。 (図 1)

学校数は、昭和 24 年には本校、分校合わせて 53 校あったが、昭和 30 年代から分校を中心に漸次廃止され、昭和 40 年には 41 校、昭和 50 年には 24 校となった。 (図 2)

生徒数や学校数が減少する中、昭和 53 年には「香川県定時制高校等問題研究会」から、夜間定時制課程について、次のことが提言された。

(主な内容)

- ・入学者が 5 人程度以下の状況が継続し、今後とも増加の見込みがないときは、全県的な視野のもとに、地域性、交通事情等を考慮して統廃合を検討する。
- ・施設設備については、将来を見通して、計画的に専用の教室、照明器具、暖房設備、給食設備等の整備拡充に努める。
- ・生涯教育の場を拡張し充実するという立場から定時制教育の意義を見直すとともに、働きながら学ぶ生徒の学習負担を軽減し、効果的学習を行うため教育課程の編成を弾力的に行うなど就学条件の改善について研究を進める。

このような状況において、昭和 57 年と 58 年に公立 4 校において定時制課程が募集停止された。定時制課程を設置する高校は、昭和 61 年度には 12 校となり、生徒数も昭和 60 年度には 750 人程度に減少した。

その後、急速な社会の変化に伴って生徒のニーズの多様化が進む中、昭和 63 年には、定時制・通信制課程において修業年限の短縮や単位制の導入が制度的に可能となり、定時制・通信制教育にとって大きな転機になった。

これを受けて高校教育改革が進む中、平成 6 年に「香川県高校教育問題研究協議会」から、「単位制の導入、修業年限の弾力化、単位認定の弾力化などについて検討を進めていく必要がある」と提言された。

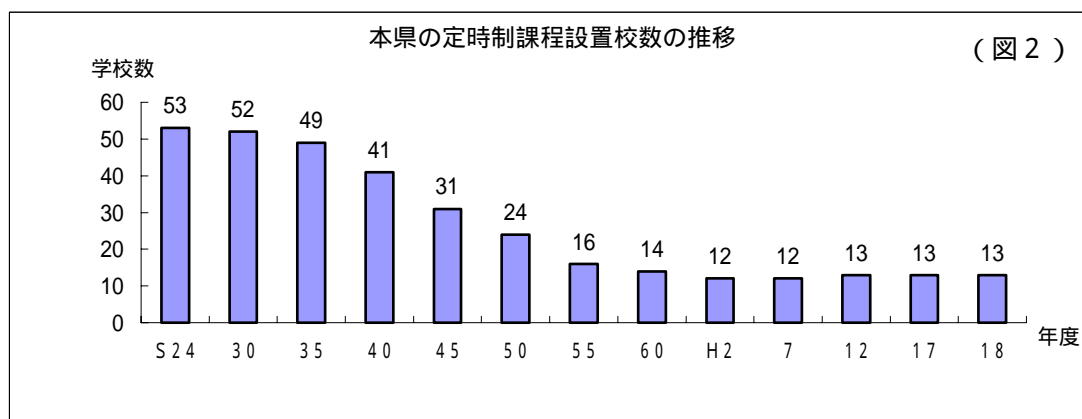
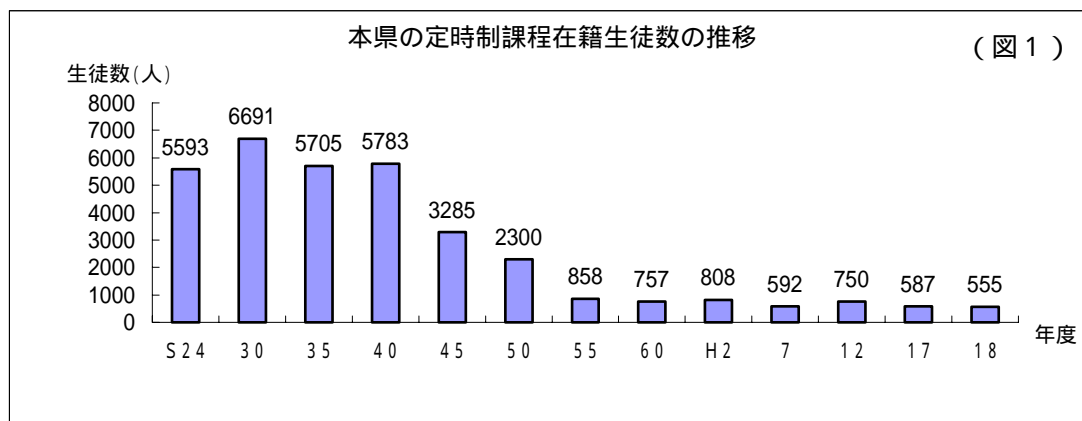
これに基づき、新しいタイプの高校として新設された三木高校の定時制課程では、単位制²の導入、単位認定の弾力化、3 年で卒業できるいわゆる「3 修制」³の導入、科目履修生制度⁴など、様々な試みが取り入れられた。

平成 9、10 年度に、高松工芸高校では県教育委員会から研究指定を受け、単位制の導入、単位認定の弾力化等について研究が行われた。結果として、ただちに単位制の導入には至らなかったが、教育課程の編成や必要な条件整備などについて具体的な議論が行われた。

平成 11 年には、少子化を背景として、長期的な生徒減少期にあってもすべての学校が活力に満ち、多様な教育を推進することを目的として、「県立高校の学校・学科の在り方検討会議」が設置され、全県的な視野に立った高校再編の議論が開始された。その内容については、

「3 再編に関するこれまでの検討状況」(p 7) で述べることとする。

- 1 学校制度は、一般に初等教育・中等教育・高等教育の 3 段階に区分されている。初等教育は小学校段階、中等教育は中学校及び高等学校段階、高等教育は大学段階に相当し、高等学校教育は後期の中等教育にあたる。
- 2 学年による教育課程の区分を設けず、卒業までに一定数の単位を修得すれば、卒業が認められる制度。
- 3 卒業に必要な単位を修得すれば 3 年で卒業できる制度。通常の授業以外の単位修得の方法として、定通併修、始業前授業での履修などがある。
- 4 定時制・通信制課程の単位制高校において、高校に在籍していない人が聴講生として特定の科目のみを受講できる制度。



(2) 現状と課題

現在、定時制課程は県立 13 校に設置されており、普通科が 8 校、工業科が 3 校、商業科が 2 校である。施設については全日制課程と大部分を共用している。(資料 4 参照)

生徒数は、この 10 年間にわたり減少を続けており、平成 18 年度の在籍生徒数は 13 校すべて合わせて 555 人であり、1 校あたり 42.7 人(平均に満たない学校は 8 校である) 1 学級あたり 8.3 人となっている。そのため、学校行事など集団で行う活動が行いにくい場合もある。(資料 5 参照)

また、中学校卒業予定者のうち定時制課程を第一志望とする生徒は、ここ数年 50 人程度で推移している。

在籍生徒の状況を見ると、近年、勤労青少年の割合が減少する一方で、小・中学校時代に不登校経験のある者や他の高校を中途退学した者の割合が多くなっており、平成 17 年 7 月の生徒に関する調査では、かつて中学校や高校で不登校を経験した者は 45.8%、高校中退経験者は 26.3%である。(資料 1 参照)

このような状況の中で、本県の定時制課程の課題をまとめると次のようになる。

学校の小規模化

生徒数が減少しており、学校生活において、個に応じた指導が行いやすい反面、集団の中で互いに切磋琢磨し、自己を成長させていく機会が少なくなっている。また、学校行事や部活動などに支障が出ることもある。

多様化する生徒への対応

生徒の就業形態や学習歴などが多様化しており、学習面や生活面における生徒への対応については、今後必要とされる学力の向上や心のケアなども含め、これまで以上に幅広い対応が必要になっている。

全日制課程との施設の共用

かつては、全日制課程と定時制課程が教室をほとんど共用していたが、全日制課程の学級数の減少に伴い、現在、約半数の学校では定時制課程が専用に使える教室がある。しかし、特別教室や体育館は、両課程で共用となっているため、定時制課程では授業において制約を受け、全日制課程では部活動や補習など放課後の諸活動において制約を受けている。

2 通信制課程

(1) これまでの経緯

本県における通信教育は、新制高校の発足に合わせて、昭和 23 年に現在の高松高校と丸亀高校の 2 校で始まった。

通信教育は、制度発足以来、仕事や家庭の事情により、全日制・定時制課程に通学することができない人に対して、通信の方法により高校教育を受ける機会を保障する役割を担っている。

在籍する生徒数は、昭和 40 年代半ば以降、全体で 700 人～800 人程度で推移している。

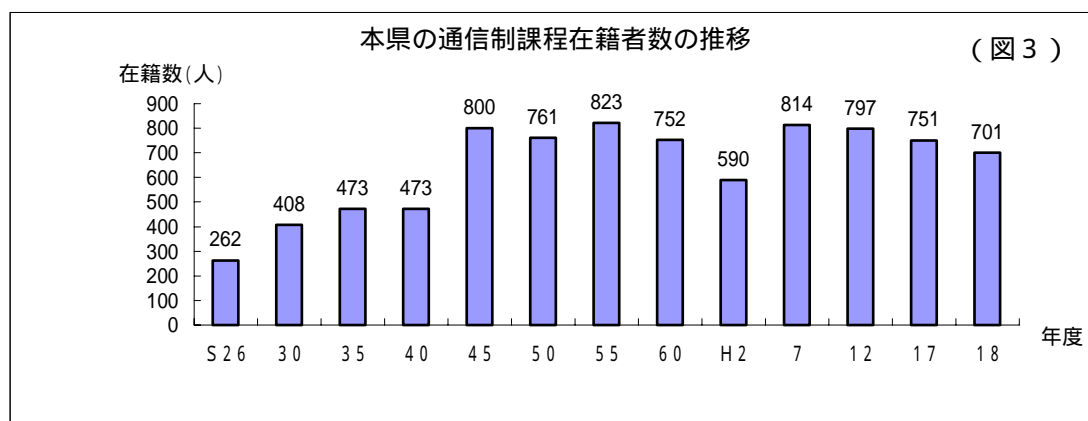
(図 3)

この間、昭和 53 年には「香川県定時制高校等問題研究会」から、通信制課程について「年齢的にも幅広い層を対象とした教育が行われていることに留意し、教育内容や教育方法を改善するなど、生涯教育の観点からも一層その普及充実を図る」ことが提言されている。さらに、急速な社会の変化に伴って生徒のニーズの多様化が進む中、昭和 63 年には国において、定時制・通信制課程の修業年限の弾力化が制度化された。

丸亀高校の通信制課程では、文部省(当時)の研究指定校(平成 5 年度～6 年度)として研究を重ね、平成 6 年度から「3 修制」を導入した。

通信教育の学習は、全日制・定時制課程とは大きく異なり、教科書や学習書を使って家庭学習を行い、学校にレポート(報告課題)を提出して添削指導を受けることが主体であり、これを補うものとして月 2 回程度の日曜日にスクーリング(面接指導⁵)が行われている。

5 登校して個別あるいは一斉授業によって、教師の指導を受けること。



(2) 現状と課題

現在、通信制課程は、発足当時と同じく、高松高校と丸亀高校に全日制課程及び定時制課程とともに設置されており、いずれも普通科である。

在籍生徒数⁶は、平成 18 年度は両校合わせて 701 人である。生徒の状況については、近年、自らの生活スタイルに合わせて通信制課程を積極的に選択する者のほか、不登校や高校中退の経験を持つ者の割合が多くなっている。平成 17 年 7 月の生徒に関する調査⁷では、かつて中学校や高校で不登校を経験した者は 61%、高校中退経験者は 43.9% である。

(資料 1 参照)

通信教育の基本は自学自習であるが、学習歴が多様であるため、一部には、まず自分で学習する力をつけることが必要な生徒がいるなどの新たな課題が生じている。

このような状況の中で、本県の通信制課程の課題をまとめると次のようになる。

個に応じた学習指導

生徒の年齢や目的意識などは多様であり、添削指導やスクーリングにおいて、様々な学習歴や目標に対応した学習指導が必要となっている。したがって、個別のニーズに応じた補助スクーリングの実施も考えられる。

社会性の育成

スクーリングは集団で学習する貴重な機会であり、その中で集団における自覚・態度や好ましい人間関係などを培うことが必要である。

生徒との通信手段

添削指導におけるレポートや配布物の送付は郵送が中心となっているが、情報通信技術が進展している中、Eメールを含めインターネットなどの活用も望まれている。

6 通信制課程において、年度当初に受講登録し、スクーリングに通常出席している生徒は、一般に「活動生」と呼ばれる。また、様々な事情で受講登録しなかったり、受講登録はしたがスクーリングに出席できていない生徒は「不活動生」と呼ばれており、在籍生徒数には「不活動生」も含まれている。

7 通信制課程の 1 年生のうち活動生を対象に調査した。

3 再編に関するこれまでの検討状況

高校の再編については、平成 11 年に設置された「県立高校の学校・学科の在り方検討会議」において、全県的な視野に立った議論が行われ、平成 12 年 8 月には、今後の定時制・通信制課程の在り方について、次のような趣旨の提言がなされた。

(定時制課程)

- ・情報化の進展に伴う専門教育の充実や単位制の導入、昼間授業の実施などを可能な限り早期に図ることが望ましい。
- ・これらを実現するため、学科の全県的な配置や通学の便などにも配慮しながら、統廃合を検討する必要がある。

(通信制課程)

- ・今後とも存続し、その教育内容を充実することが望ましい。

この検討会議の報告に基づいて、平成 13 年 3 月に「県立高校の再編整備基本計画（平成 13 年度～平成 17 年度）」が策定され、定時制・通信制課程の在り方について、次のような方向性が示された。

- ・定時制課程については、情報化の進展に伴う専門教育の充実を図るためには、一定の生徒数を確保することが必要であることから、中讃地区において 1 校を募集停止する。

その後、この内容について具体的な検討がなされている中、「香川県新世紀基本構想」の後期事業計画の策定時期を 1 年前倒しすることに合わせて、平成 16 年に後期の再編整備基本計画の策定作業が始まった。この内容については、後期計画の中で、県下全体の定時制・通信制課程の適正配置を踏まえて改めて検討されることになった。

平成 17 年 3 月に策定された「県立高校の再編整備基本計画（平成 17 年度～平成 22 年度）」においては、次のような方向性が示された。 (資料 6 参照)

- ・三木高校の定時制課程と同様の学習形態を第 2 学区においても提供する。
- ・県下全体の定時制・通信制課程の適正配置について継続的に検討する。

定時制・通信制教育に期待される役割

本協議会では、これまでの経緯等を踏まえつつ、社会情勢の変化や生徒のニーズの多様化などに対応できるよう、新たな視点から協議を重ねてきた。本県における定時制・通信制教育の現状や課題を踏まえると、今後の定時制・通信制教育に期待される役割は次のようなものであると考えられる。

1 勤労青少年に対する後期中等教育機関

勤労青少年に対して、働きながら学ぶ機会を提供する後期中等教育機関としての役割は、今後とも重要である。

2 不登校経験者や中途退学者などに再び学ぶ機会を提供する機関

不登校経験のある生徒や中途退学者などに「学び」への再チャレンジの機会を提供し、社会的な自立を支援する役割がこれまで以上に期待される。

3 県民に学習の機会を提供する生涯学習機関

かつて高校教育を受けられなかった人や、教養を高めたり資格取得をめざす人に学習の場を提供するなど、県民の学習熱に応える生涯学習機関としても期待される。

本協議会では、定時制・通信制教育がこれらの役割を果たすためには、次のような視点が重要であることを確認した上で、今後の在り方について提言することとした。

学習面

基礎学力の定着を図ること、上級学校への進学にも対応した学力の向上に努めること、普通科においてもコンピュータなどの実用的な学習や資格取得ができるようにすること。

生活面

基本的な生活習慣の定着、規範意識や勤労観・職業観、コミュニケーション能力の育成など、自主自立の精神や社会の一員としての自覚や態度を身に付けさせること。

制度面

定通併修⁸や実務代替⁹など、定時制・通信制課程のみに認められた独自の制度を積極的に活用すること。

8 定時制課程の生徒が自校又は他校の通信制課程で単位を修得した場合、あるいは、通信制課程の生徒が自校の定時制又は他校の定時制や通信制課程で単位を修得した場合、卒業に必要な単位数に加えることができる制度。

9 定時制又は通信制課程において職業に関する各教科・科目を履修する生徒が、その教科・科目と密接に関係する職業に従事している場合、教科・科目の履修と同様の成果があると認められるときは、その実務をもって、各教科・科目の履修に代えることができる制度。

定時制・通信制教育の今後の在り方

「県立高校の再編整備基本計画（平成 17 年度～平成 22 年度）」に示された再編を具体化し、定時制・通信制教育を一層充実するため、まず取り組むべきこととして次のとおり提言する。

1 定時制課程

（１）多様で弾力的な教育課程の編成

生徒の能力・適性、興味・関心、進路希望等に対応して、一人一人の能力や個性を生かし、伸ばすためには、多様で弾力的な教育課程を編成することが必要である。具体的な例としては、次のようなことが考えられる。

- ・国語、数学、英語などにおいて、基礎学力を養う学校設定科目を必要に応じて開設する。
- ・普通科においても、必要に応じて商業や家庭に関する専門科目などを幅広く学習できるようにする。
- ・進路を主体的に選択する力や、勤労観や職業観を育成するキャリア教育を推進する。

（資料 7 参照）

（２）単位制の拡大とその有効活用

多様で弾力的な教育課程の編成や運用に当たっては、各学校で単位制の導入を検討する必要がある。

単位制の活用により、進級・卒業認定や転学許可においてより柔軟な取扱いが可能になることでも意義がある。

単位制の導入とともに 2 学期制も採用して、学期ごとの単位認定や年度途中の入学・卒業を検討することが必要である。

科目履修生制度を活用し、広く県民を対象とした講座を、ニーズに応じて開設することを期待する。

単位制の活用にあたっては、生徒が興味・関心や進路希望に沿って教科・科目を適切に選択できるよう、きめ細かなガイダンスを行うことが大切であり、学科の特色や学校の実情に応じた単位制の運用を検討する必要がある。

（３）3 修制の拡大

4 年での卒業を基本とするが、始業前授業や定通併修等を活用することにより、希望すれば 3 年でも卒業できる 3 修制を拡大することが必要である。

（４）昼間定時制の開設を検討

不登校生徒のように全日制課程のような大きな規模にはなじめないが、昼間に学ぶことを希望する生徒が生まれている中、昼間定時制の開設を検討する必要がある。

(5) 定時制課程の再編

一定の生徒数を確保することで、多様な選択科目の開設、学校行事や部活動の活発化など、教育活動がさらに充実することが期待され、そのためには再編統合を行う必要がある。

定時制課程の統廃合の基準については、昭和 53 年に「香川県定時制高校等問題研究会」から「入学者が 5 人程度以下の状況が継続し、増加の見込みがないときは統廃合を検討する」ことが提言され、その後、公立 4 校で定時制課程が募集停止された。

生徒数の推移は、再編の検討において、まず考えるべき重要な要素である。昭和 50 年代の再編においては、主に量的な側面から判断がなされたが、当時とは定時制課程の配置状況や生徒の就業状況などが大きく異なることから、生徒数を勘案しつつ、地域の実情や通学の便、学科の配置なども考慮して、総合的に検討することが望ましいと考える。

定時制課程の再編を、「地域という視点」と「学科という視点」の 2 つの面から考えた場合、その方向性は、次のようなものであると考える。なお、その具体的な実施計画については、県教育委員会において、総合的に検討していただきたい。

< 地域という視点 >

(小 豆)

- ・小豆島高校、土庄高校の 2 校に定時制課程がある。
- ・地理的条件などから、この地域に定時制課程は必要である。

(東かがわ・さぬき)

- ・三本松高校、志度高校の 2 校に定時制課程がある。
- ・地理的条件などから、この地域に定時制課程は必要である。

(高 松)

- ・三木高校、高松高校、高松工芸高校、高松商業高校の 4 校に定時制課程がある。
- ・三木高校の定時制課程は、単位制・3 修制を実施している。生徒は比較的広い範囲から通学しており、他校に比べ定員充足率も高いことから、引き続き本県の定時制教育の中心的な役割を果たすことを期待する。

(中 讃)

- ・坂出工業高校、丸亀高校、善通寺西高校、多度津工業高校の 4 校に定時制課程がある。
- ・善通寺西高校はすでに生徒の募集を停止しており、平成 20 年度末に廃止される。
- ・この地域にも、単位制・3 修制を導入することが望ましい。

(三豊・観音寺)

- ・観音寺第一高校に定時制課程があり、在籍生徒数は県下で最も多い。
- ・地理的条件などから、この地域に定時制課程は必要である。

< 学科という視点 >

(普通科)

- ・ 普通教科・科目を中心に広く知識、教養を身に付けさせ、生徒の多様な学習ニーズに対応できる学科としてそれぞれの地域に必要である。
- ・ 普通科においても必要に応じて専門教科・科目の学習ができるようにする工夫が必要である。

(専門学科)

- ・ 各専門分野の知識と技術を身に付けさせ、資格取得や専門性を生かした進路希望を実現できる学科として必要であるが、近隣に同じ学科が設置されている場合は、専門教育の充実を図る観点から検討が必要である。

2 通信制課程

(1) スクーリングの工夫

家庭学習や添削指導が中心の通信制課程においては、スクーリングは集団の中で学習する場であるとともに、年齢や職業が多様な生徒が集まり交流を図る場でもある。したがって、生徒の人間形成に資するため、より多くの生徒が学校行事や生徒会活動に参加できるようにするなどスクーリングの工夫に努めるべきである。

(2) 学習機会の拡大

学習内容を十分に理解できていない生徒や、学習習慣が十分身に付いていない生徒もいることを考えれば、平日を利用した補習など、学習機会の拡大に向けた工夫が必要である。全日制課程の授業が行われていない夏休みなどを利用して、補助スクーリングを集中的に行うことも考えられる。

こうした取り組みを通して、生徒が教員と接する機会が多くなれば、学習はもとより教育相談や進路指導面においても、これまで以上に個に応じた対応が期待できる。

(3) 定時制課程と通信制課程の連携の促進

生徒が、興味・関心や勤務の都合など、それぞれの状況に応じて、課程を越えて、通信制課程の生徒が定時制課程の授業を受講したり、定時制課程の生徒が通信教育を受けたりすることができるよう、両課程で教育課程を調整するなど、連携の促進を期待する。

(4) 学校間連携の促進

普通科の生徒であっても、工業や商業の資格取得をめざすなど普通科以外の学習を希望する生徒には、定時制課程の授業を一部受講できるようにするなど、弾力的に対応することが必要である。

定時制課程の生徒が通信制課程での履修を希望する場合には、広く受け入れることが望ましい。

課程や学校間での連携を通して、生徒同士の交流の機会が増え、生徒に自立性や社会性が培われることなどが期待される。

(5) 情報通信技術の発達に対応した教育方法などの研究

高度情報化時代に対応した通信教育を推進することは大切であり、従来からの添削指導や面接指導に加え、Eメールを含めインターネットなどを利用した個別指導や学習相談などを検討することが望ましい。

今後、情報通信技術の発達に対応した効率的・効果的な教育方法(e-ラーニングを含む)や教材の開発などについて、生徒の情報通信環境の実状を把握しながら検討することが望ましい。

3 学校評価に基づく開かれた学校づくり

すでに県立高校においては、教育活動その他の学校運営の状況について、各学校の実情に応じた項目を設定して自ら行う点検及び評価を実施し、その結果に基づいて教育活動等を改善する取組みが行われている。

各学校においては、日常の教育活動の広報活動や評価結果の積極的な公表を通して、当該学校の定時制・通信制教育における取組みについて、県民からのより一層の理解と評価を得る努力が必要である。

生徒の就業状況や生活スタイルに基づく学習ニーズの把握並びに社会のニーズなどに関する情報収集にも努め、より適切な評価が行われるようその在り方について常に検証する必要がある。

将来に向けて

近年、多様な生徒のニーズに対応した教育を行うため定時制・通信制の独立校を設置している都道府県が増えており、こうした地域においては定通独立校への志願者は多い状況にある。

独立校であれば、全日制課程との施設共用や小規模化による様々な課題が解消され、学習や部活動などの教育活動がより一層充実することが期待される。

こうしたことから、定時制・通信制教育の拠点となるような定通独立校について、本協議会でも研究を行ってきたところであるが、本県におけるニーズを把握しつつ、さらに研究を進めて行く必要がある。

平成 18 年 12 月の教育基本法の改正により、国民一人一人が豊かな人生を送ることができるよう、基本的理念として「生涯学習の理念」が新たに規定された。

今後期待される役割として述べたように、定時制・通信制教育には後期中等教育としての役割をしっかりと果たすとともに、その機能を生かして県民に学習の機会を提供するという広い観点からの一層の充実が図られることを願っている。

資 料

目 次

| | | |
|-------|--|----|
| 資料 1 | 生徒に関する調査結果 | 17 |
| 資料 2 | 意識調査結果（生徒・職員） | 22 |
| 資料 3 | 県外学校視察の概要 | 28 |
| 資料 4 | 定時制・通信制設置高校配置図（平成 18 年度） | 31 |
| 資料 5 | 定時制・通信制課程在籍生徒数の推移（学校別） | 32 |
| 資料 6 | 「県立高校の再編整備基本計画（平成 17 年度～平成 22 年度）」（抜粋） | 33 |
| 資料 7 | 教育課程（3 修制）のモデル | 34 |
| 資料 8 | 定時制・通信制ステップ・アップ協議会協議経過 | 36 |
| 資料 9 | 定時制・通信制ステップ・アップ協議会設置要綱 | 37 |
| 資料 10 | 委員名簿 | 38 |

生徒に関する調査結果

1 調査結果の概要

(1) 調査の概要

調査時期：平成17年7月20日現在

調査対象：県下定時制課程生徒全員（調査数 13校 574人）

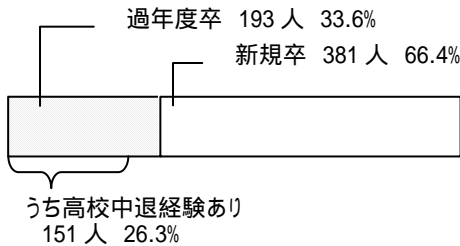
県下通信制課程生徒1年生のうち活動生（調査数 2校 123人）

調査内容：出身中学校、中学校卒業年度、高校入学年度、居住地、就労場所、職種、
雇用形態、通学方法、通学起点、通学時間、不登校経験、高校中退経験

調査方法：学校が把握している生徒に関する事項を学校から聴取

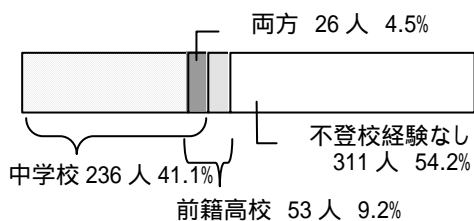
(2) 定時制課程の概要

過年度卒及び高校中退



過年度卒業者は193人(33.6%)である。
このうち、高校中退経験者は151人
(26.3%)であり、過年度卒業者のうちの
78.2%にあたる。

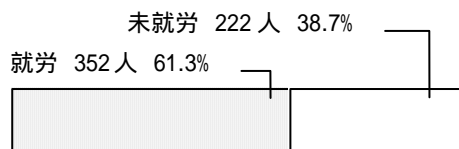
不登校経験



中学校での不登校経験者は236人
(41.1%)、前籍高校での不登校経験者は
53人(9.2%)である。また、中学校と前
籍高校の両方での不登校経験者は26人
(4.5%)である。不登校の経験がない者は
311人(54.2%)である。

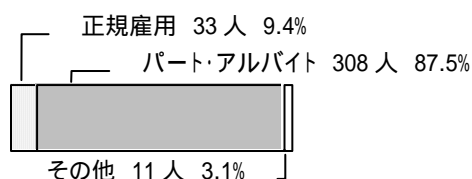
就労状況

ア 就労の有無



就労者は352人(61.3%)、未就労者は
222人(38.7%)である。

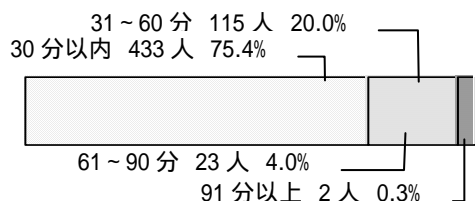
イ 就労形態



就労者352人のうち、正規雇用は33人(就労者の9.4%)であり、パート・アルバイトでの雇用は308人(87.5%)である。

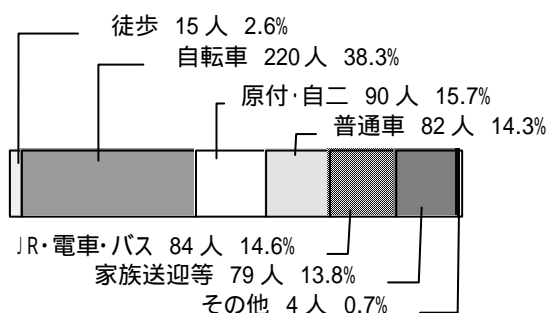
通学状況

ア 通学時間



通学時間は、30分以内が433人(75.4%)である。

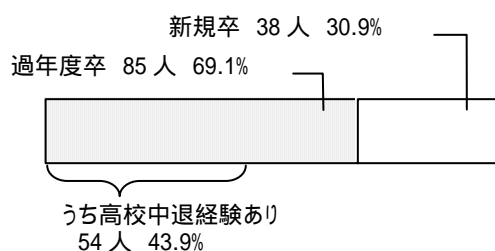
イ 通学手段



自転車通学者は220人(38.3%)で最も多く、次いで原付・自動二輪が90人(15.7%)、JR・電車・バスが84人(14.6%)、普通車が82人(14.3%)、家族送迎等が79人(13.8%)の順である。

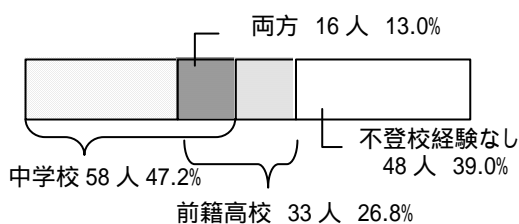
(3) 通信制課程の概要

過年度卒及び高校中退



過年度卒業者は85人(69.1%)である。また、高校中退経験者は54人(43.9%)であり、過年度卒業者のうちの63.5%にあたる。

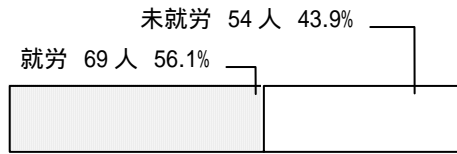
不登校経験



中学校での不登校経験者は58人(47.2%)、前籍高校での不登校経験者は33人(26.8%)、中学校と前籍高校の両方での不登校経験者は16人(13.0%)である。不登校の経験がない者は48人(39.0%)である。

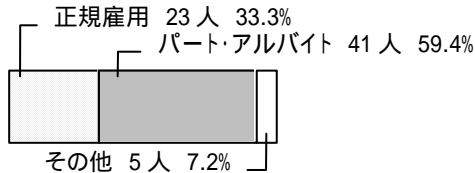
就労状況

ア 就労の有無



就労者は69人(56.1%)、未就労者は54人(43.9%)である。

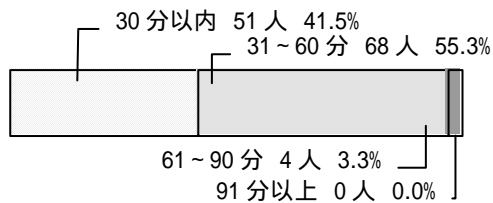
イ 就労形態



就労者69人のうち、正規雇用は23人で、就労者の33.3%であり、パート・アルバイトでの雇用は41人(59.4%)である。

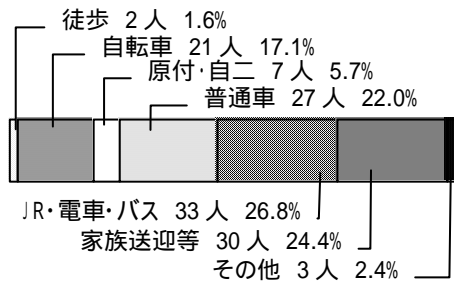
通学状況

ア 通学時間



通学時間は、31~60分が68人(55.3%)で最も多く、次いで30分以内が51人(41.5%)である。

イ 通学手段



JR・電車・バスが33人(26.8%)で最も多く、次いで家族送迎等が30人(24.4%)、普通車が27人(22.0%)、自転車が21人(17.1%)の順である。

2 集計結果

調査時期：平成17年7月20日現在

| 全体集計 | |
|------|-----|
| 課程 | 定時制 |

注) 下表の数値は人数を表す

生徒数

| | | | |
|----|---|-----|-----|
| 1年 | 男 | 98 | 180 |
| | 女 | 82 | |
| 2年 | 男 | 97 | 155 |
| | 女 | 58 | |
| 3年 | 男 | 85 | 129 |
| | 女 | 44 | |
| 4年 | 男 | 64 | 110 |
| | 女 | 46 | |
| 計 | 男 | 344 | 574 |
| | 女 | 230 | |

居住地

| | | |
|-------|------|----|
| 高松市 | 176 | |
| 丸亀市 | 64 | |
| 坂出市 | 37 | |
| 善通寺市 | 21 | |
| 観音寺市 | 49 | |
| さぬき市 | 18 | |
| 東かがわ市 | 13 | |
| 小豆郡 | 内海町 | 10 |
| | 土庄町 | 14 |
| | 池田町 | 2 |
| 木田郡 | 三木町 | 30 |
| | 牟礼町 | 12 |
| | 庵治町 | 1 |
| 香川郡 | 塩江町 | 1 |
| | 香川町 | 11 |
| | 香南町 | 2 |
| | 直島町 | 0 |
| 綾歌郡 | 綾上町 | 4 |
| | 綾南町 | 5 |
| | 国分寺町 | 10 |
| | 宇多津町 | 7 |
| 仲多度郡 | 琴南町 | 0 |
| | 満濃町 | 5 |
| | 琴平町 | 1 |
| | 多度津町 | 16 |
| | 仲南町 | 2 |
| 三豊郡 | 高瀬町 | 10 |
| | 山本町 | 6 |
| | 三野町 | 2 |
| | 大野原町 | 11 |
| | 豊中町 | 9 |
| | 詫間町 | 4 |
| | 仁尾町 | 8 |
| | 豊浜町 | 10 |
| | 財田町 | 2 |
| 県外 | 1 | |

入学者の別

| | |
|------|-----|
| 新卒 | 381 |
| 過年度卒 | 193 |

職種

| | |
|----------|-----|
| 農林業 | 3 |
| 漁水業 | 3 |
| 鉱業 | 0 |
| 建設業 | 30 |
| 製造業 | 43 |
| 卸小売 | 19 |
| 金融・保険 | 0 |
| 不動産 | 0 |
| 運輸・通信 | 20 |
| 電気・ガス・水道 | 3 |
| 病院等 | 7 |
| サービス | 208 |
| 公務 | 10 |
| その他 | 6 |
| 無業 | 222 |

雇用形態

| | |
|-----------|-----|
| 正規雇用 | 33 |
| パート・アルバイト | 308 |
| その他 | 11 |
| 無業 | 222 |

通学方法

| | |
|-------|-----|
| 徒歩 | 15 |
| 自転車 | 220 |
| 原付・自二 | 90 |
| 普通車 | 82 |
| JR | 31 |
| バス | 2 |
| コトデン | 51 |
| 家族等送迎 | 79 |
| その他 | 3 |

通学起点

| | |
|------|-----|
| 自宅 | 395 |
| 就労場所 | 177 |
| その他 | 1 |

通学時間・片道

| | |
|--------|-----|
| 30分以内 | 433 |
| 31～60分 | 115 |
| 61～90分 | 23 |
| 91分以上 | 2 |

不登校経験

| | |
|-----------|-----|
| 中学校のみで経験 | 210 |
| 前籍高校のみで経験 | 27 |
| 中学・前籍校で経験 | 26 |
| なし | 309 |

高校中退経験

| | |
|----|-----|
| あり | 151 |
| なし | 423 |

調査時期：平成17年7月20日現在

| | |
|------|-----|
| 全体集計 | |
| 課程 | 通信制 |

注) 下表の数値は人数を表す

生徒数

| | | | |
|----|---|----|-----|
| 1年 | 男 | 55 | 123 |
| | 女 | 68 | |

居住地

| | | |
|-------|------|---|
| 高松市 | 40 | |
| 丸亀市 | 21 | |
| 坂出市 | 5 | |
| 善通寺市 | 2 | |
| 観音寺市 | 12 | |
| さぬき市 | 4 | |
| 東かがわ市 | 0 | |
| 小豆郡 | 内海町 | 2 |
| | 土庄町 | 0 |
| | 池田町 | 0 |
| 木田郡 | 三木町 | 2 |
| | 牟礼町 | 3 |
| | 庵治町 | 0 |
| 香川郡 | 塩江町 | 0 |
| | 香川町 | 3 |
| | 香南町 | 1 |
| | 直島町 | 1 |
| 綾歌郡 | 綾上町 | 0 |
| | 綾南町 | 3 |
| | 国分寺町 | 4 |
| | 宇多津町 | 4 |
| 仲多度郡 | 琴南町 | 0 |
| | 満濃町 | 3 |
| | 琴平町 | 1 |
| | 多度津町 | 4 |
| | 仲南町 | 0 |
| 三豊郡 | 高瀬町 | 2 |
| | 山本町 | 1 |
| | 三野町 | 0 |
| | 大野原町 | 0 |
| | 豊中町 | 2 |
| | 詫間町 | 2 |
| | 仁尾町 | 0 |
| | 豊浜町 | 0 |
| | 財田町 | 1 |
| 県外 | 0 | |

入学者の別

| | |
|------|----|
| 新卒 | 38 |
| 過年度卒 | 85 |

職種

| | |
|----------|----|
| 農林業 | 0 |
| 漁水業 | 1 |
| 鉱業 | 0 |
| 建設業 | 9 |
| 製造業 | 3 |
| 卸小売 | 10 |
| 金融・保険 | 0 |
| 不動産 | 0 |
| 運輸・通信 | 4 |
| 電気・ガス・水道 | 0 |
| 病院等 | 7 |
| サービス | 20 |
| 公務 | 0 |
| その他 | 10 |
| 無業 | 59 |

雇用形態

| | |
|-----------|----|
| 正規雇用 | 23 |
| パート・アルバイト | 41 |
| その他 | 5 |
| 無業 | 54 |

通学方法

| | |
|-------|----|
| 徒歩 | 2 |
| 自転車 | 21 |
| 原付・自二 | 7 |
| 普通車 | 27 |
| JR | 21 |
| バス | 1 |
| コトデン | 11 |
| 家族等送迎 | 30 |
| その他 | 3 |

通学起点

| | |
|------|-----|
| 自宅 | 119 |
| 就労場所 | 3 |
| その他 | 1 |

通学時間・片道

| | |
|--------|----|
| 30分以内 | 51 |
| 31～60分 | 68 |
| 61～90分 | 4 |
| 91分以上 | 0 |

不登校経験

| | |
|-----------|----|
| 中学校のみで経験 | 42 |
| 前籍高校のみで経験 | 17 |
| 中学・前籍校で経験 | 16 |
| なし | 48 |

高校中退経験

| | |
|----|----|
| あり | 54 |
| なし | 69 |

1. あなたが定時制課程に入学しようと思った目的は何ですか。（はいいくつでも可）

- ア．高校卒業の資格を得るため
イ．学び直しをするため
ウ．自分の興味・適性・能力を発見するため
エ．大学・短大・専門学校などへ進学するため
オ．工業や商業などの特定の資格を取得するため
カ．その他

| 全体 | | 普通科 | | 専門学科 | |
|-----|-------|-----|-------|------|-------|
| 362 | 76.2% | 217 | 77.8% | 145 | 74.0% |
| 67 | 14.1% | 42 | 15.1% | 25 | 12.8% |
| 92 | 19.4% | 40 | 14.3% | 52 | 26.5% |
| 102 | 21.5% | 75 | 26.9% | 27 | 13.8% |
| 57 | 12.0% | 2 | 0.7% | 55 | 28.1% |
| 40 | 8.4% | 20 | 7.2% | 20 | 10.2% |

2. あなたが定時制課程に入学しようと思った理由は何ですか。（はいいくつでも可）

- ア．働きながら学べるから
イ．自分の生活スタイルに合っているから
ウ．4年間でゆっくりと学べるから
エ．経済的・家庭的事情から
オ．先生や親に勧められたから
カ．全日制の受験で不合格になったから
キ．その他

| | | | | | |
|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| 226 | 47.6% | 119 | 42.7% | 107 | 54.6% |
| 171 | 36.0% | 99 | 35.5% | 72 | 36.7% |
| 47 | 9.9% | 25 | 9.0% | 22 | 11.2% |
| 84 | 17.7% | 37 | 13.3% | 47 | 24.0% |
| 95 | 20.0% | 54 | 19.4% | 41 | 20.9% |
| 102 | 21.5% | 50 | 17.9% | 52 | 26.5% |
| 40 | 8.4% | 29 | 10.4% | 11 | 5.6% |

3. 高校生活において、一番努力している（努力しようと思っている）ことは何ですか。（は1つのみ）

- ア．勉強
イ．部活動（定通総体）
ウ．生徒会活動
エ．資格取得
オ．仕事（アルバイト）
カ．友達づくり
キ．毎日の通学
ク．その他

| | | | | | |
|-----|-------|----|-------|----|-------|
| 70 | 14.7% | 58 | 20.8% | 12 | 6.1% |
| 33 | 6.9% | 15 | 5.4% | 18 | 9.2% |
| 3 | 0.6% | 0 | 0.0% | 3 | 1.5% |
| 36 | 7.6% | 13 | 4.7% | 23 | 11.7% |
| 124 | 26.1% | 65 | 23.3% | 59 | 30.1% |
| 25 | 5.3% | 18 | 6.5% | 7 | 3.6% |
| 101 | 21.3% | 63 | 22.6% | 38 | 19.4% |
| 25 | 5.3% | 14 | 5.0% | 11 | 5.6% |

4. 現在の高校生活について、どのように感じていますか。（は1つのみ）

(1) 学校生活全般について

- ア．満足している
イ．ほぼ満足している
ウ．あまり満足していない
エ．満足していない

| | | | | | |
|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| 65 | 13.7% | 28 | 10.0% | 37 | 18.9% |
| 289 | 60.8% | 170 | 60.9% | 119 | 60.7% |
| 73 | 15.4% | 48 | 17.2% | 25 | 12.8% |
| 48 | 10.1% | 33 | 11.8% | 15 | 7.7% |

(2) 授業内容について

- ア．満足している
イ．ほぼ満足している
ウ．あまり満足していない
エ．満足していない

| | | | | | |
|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| 80 | 16.8% | 41 | 14.7% | 39 | 19.9% |
| 280 | 58.9% | 164 | 58.8% | 116 | 59.2% |
| 83 | 17.5% | 53 | 19.0% | 30 | 15.3% |
| 32 | 6.7% | 21 | 7.5% | 11 | 5.6% |

(3) 学校行事について

- ア．満足している
イ．ほぼ満足している
ウ．あまり満足していない
エ．満足していない

| | | | | | |
|-----|-------|-----|-------|----|-------|
| 83 | 17.5% | 44 | 15.8% | 39 | 19.9% |
| 230 | 48.4% | 140 | 50.2% | 90 | 45.9% |
| 109 | 22.9% | 68 | 24.4% | 41 | 20.9% |
| 51 | 10.7% | 26 | 9.3% | 25 | 12.8% |

(4) 学校の規則（校則）について

- ア．ゆるい
イ．ややゆるい
ウ．ややきびしい
エ．きびしい

| | | | | | |
|-----|-------|----|-------|----|-------|
| 121 | 25.5% | 70 | 25.1% | 51 | 26.0% |
| 183 | 38.5% | 97 | 34.8% | 86 | 43.9% |
| 118 | 24.8% | 80 | 28.7% | 38 | 19.4% |
| 50 | 10.5% | 30 | 10.8% | 20 | 10.2% |

(5) HR教室や特別（実習）教室など学校の施設・設備について

- ア．満足している
イ．ほぼ満足している
ウ．あまり満足していない
エ．満足していない

| | | | | | |
|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| 75 | 15.8% | 37 | 13.3% | 38 | 19.4% |
| 294 | 61.9% | 182 | 65.2% | 112 | 57.1% |
| 70 | 14.7% | 43 | 15.4% | 27 | 13.8% |
| 34 | 7.2% | 15 | 5.4% | 19 | 9.7% |

5. 次のような制度があればよいと思いますか。(は1つのみ)

(1) 学校や課程の制度について

夜間ではなく、昼間に授業を行う定時制課程

(昼間定時制)

- ア. はい
イ. どちらでもよい
ウ. いいえ

| 全体 | | 普通科 | | 専門学科 | |
|-----|-------|-----|-------|------|-------|
| 126 | 26.5% | 82 | 29.4% | 44 | 22.4% |
| 202 | 42.5% | 124 | 44.4% | 78 | 39.8% |
| 142 | 29.9% | 70 | 25.1% | 72 | 36.7% |

卒業に必要な一定数の単位を修得すれば、3年間で卒業できる制度(3修制)

- ア. はい
イ. どちらでもよい
ウ. いいえ

| | | | | | |
|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| 323 | 68.0% | 206 | 73.8% | 117 | 59.7% |
| 102 | 21.5% | 55 | 19.7% | 47 | 24.0% |
| 46 | 9.7% | 15 | 5.4% | 31 | 15.8% |

学年の区分がなく、単位の修得を積み重ねて卒業できる制度(単位制)

- ア. はい
イ. どちらでもよい
ウ. いいえ

| | | | | | |
|-----|-------|-----|-------|----|-------|
| 180 | 37.9% | 119 | 42.7% | 61 | 31.1% |
| 200 | 42.1% | 119 | 42.7% | 81 | 41.3% |
| 89 | 18.7% | 37 | 13.3% | 52 | 26.5% |

年度途中でも入学(10月)や卒業(9月)ができる制度

- ア. はい
イ. どちらでもよい
ウ. いいえ

| | | | | | |
|-----|-------|-----|-------|----|-------|
| 214 | 45.1% | 129 | 46.2% | 85 | 43.4% |
| 202 | 42.5% | 124 | 44.4% | 78 | 39.8% |
| 53 | 11.2% | 23 | 8.2% | 30 | 15.3% |

普通科目を中心に、生活・福祉、自然・産業系など幅広い科目選択が可能な学科(総合学科)

- ア. はい
イ. どちらでもよい
ウ. いいえ

| | | | | | |
|-----|-------|-----|-------|----|-------|
| 225 | 47.4% | 143 | 51.3% | 82 | 41.8% |
| 211 | 44.4% | 122 | 43.7% | 89 | 45.4% |
| 33 | 6.9% | 12 | 4.3% | 21 | 10.7% |

(2) 様々な単位認定の制度について

通信制課程を利用して単位を修得すれば、卒業に必要な単位数に加えることができる制度

(定通併修)

- ア. はい
イ. どちらでもよい
ウ. いいえ

| | | | | | |
|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| 181 | 38.1% | 122 | 43.7% | 59 | 30.1% |
| 252 | 53.1% | 141 | 50.5% | 111 | 56.6% |
| 38 | 8.0% | 14 | 5.0% | 24 | 12.2% |

他の学校の授業を受けて単位を修得すれば、卒業に必要な単位数に加えることができる制度

(学校間連携)

- ア. はい
イ. どちらでもよい
ウ. いいえ

| | | | | | |
|-----|-------|-----|-------|----|-------|
| 169 | 35.6% | 103 | 36.9% | 66 | 33.7% |
| 249 | 52.4% | 155 | 55.6% | 94 | 48.0% |
| 53 | 11.2% | 19 | 6.8% | 34 | 17.3% |

高校卒業程度認定試験(旧大検)に合格すれば、その科目を卒業に必要な単位数に加えることができる制度

- ア. はい
イ. どちらでもよい
ウ. いいえ

| | | | | | |
|-----|-------|-----|-------|-----|-------|
| 191 | 40.2% | 124 | 44.4% | 67 | 34.2% |
| 248 | 52.2% | 145 | 52.0% | 103 | 52.6% |
| 31 | 6.5% | 7 | 2.5% | 24 | 12.2% |

学校外の学修(大学などの講座やボランティア活動など)を一定以上行えば、卒業に必要な単位数に加えることができる制度(学校外学修)

- ア. はい
イ. どちらでもよい
ウ. いいえ

| | | | | | |
|-----|-------|-----|-------|----|-------|
| 200 | 42.1% | 122 | 43.7% | 78 | 39.8% |
| 222 | 46.7% | 136 | 48.7% | 86 | 43.9% |
| 48 | 10.1% | 18 | 6.5% | 30 | 15.3% |

電気工事士や簿記等の各種検定に合格すれば、卒業に必要な単位数に加えることができる制度

(技能審査)

- ア. はい
イ. どちらでもよい
ウ. いいえ

| | | | | | |
|-----|-------|-----|-------|----|-------|
| 181 | 38.1% | 109 | 39.1% | 72 | 36.7% |
| 248 | 52.2% | 150 | 53.8% | 98 | 50.0% |
| 42 | 8.8% | 18 | 6.5% | 24 | 12.2% |

一定の条件を満たして就労すれば、卒業に必要な単位数に加えることができる制度(実務代替)

- ア. はい
イ. どちらでもよい
ウ. いいえ

| | | | | | |
|-----|-------|-----|-------|----|-------|
| 193 | 40.6% | 114 | 40.9% | 79 | 40.3% |
| 238 | 50.1% | 145 | 52.0% | 93 | 47.4% |
| 41 | 8.6% | 18 | 6.5% | 23 | 11.7% |

1. あなたが通信制課程に入学しようと思った目的は何ですか。（はいくつでも可）

| | | |
|------------------------|----|-------|
| ア. 高校卒業の資格を得るため | 49 | 83.1% |
| イ. 学び直しをするため | 11 | 18.6% |
| ウ. 自分の興味・適性・能力を発見するため | 7 | 11.9% |
| エ. 大学・短大・専門学校などへ進学するため | 22 | 37.3% |
| オ. その他 | 1 | 1.7% |

2. あなたが通信制課程に入学しようと思った理由は何ですか。（はいくつでも可）

| | | |
|------------------------------------|----|-------|
| ア. 働きながら学べるから | 22 | 37.3% |
| イ. 自分の生活スタイルに合っているから | 17 | 28.8% |
| ウ. 4年間でゆっくりと学べるから | 4 | 6.8% |
| エ. 経済的・家庭的事情から | 7 | 11.9% |
| オ. 先生や親に勧められたから | 13 | 22.0% |
| カ. 全日制の受験で不合格になったから | 5 | 8.5% |
| キ. 登校日が日曜日だけだから | 32 | 54.2% |
| ク. (丸亀) 高校は3年で卒業できるから (丸亀高校生徒のみ回答) | 13 | 48.1% |
| ケ. その他 | 3 | 5.1% |

3. 高校生活において、一番努力している（努力しようと思っている）ことは何ですか。（は1つのみ）

| | | |
|-------------------|----|-------|
| ア. 勉強 | 23 | 39.0% |
| イ. 定通総体 | 0 | 0.0% |
| ウ. 生徒会活動 | 0 | 0.0% |
| エ. 資格取得 | 1 | 1.7% |
| オ. 仕事（アルバイト） | 8 | 13.6% |
| カ. 友達づくり | 3 | 5.1% |
| キ. 日曜日（スクーリング）の登校 | 7 | 11.9% |
| ク. その他 | 1 | 1.7% |

4. 現在の高校生活について、どのように感じていますか。（は1つのみ）

| | | |
|---------------------------------|----|-------|
| (1) 学校生活全般について | | |
| ア. 満足している | 12 | 20.3% |
| イ. ほぼ満足している | 41 | 69.5% |
| ウ. あまり満足していない | 4 | 6.8% |
| エ. 満足していない | 1 | 1.7% |
| (2) 授業内容について | | |
| ア. 満足している | 10 | 16.9% |
| イ. ほぼ満足している | 34 | 57.6% |
| ウ. あまり満足していない | 11 | 18.6% |
| エ. 満足していない | 3 | 5.1% |
| (3) 学校行事について | | |
| ア. 満足している | 9 | 15.3% |
| イ. ほぼ満足している | 38 | 64.4% |
| ウ. あまり満足していない | 8 | 13.6% |
| エ. 満足していない | 3 | 5.1% |
| (4) 学校の規則(校則)について | | |
| ア. ゆるい | 12 | 20.3% |
| イ. ややゆるい | 26 | 44.1% |
| ウ. ややきびしい | 15 | 25.4% |
| エ. きびしい | 3 | 5.1% |
| (5) HR教室や特別（実習）教室など学校の施設・設備について | | |
| ア. 満足している | 16 | 27.1% |
| イ. ほぼ満足している | 26 | 44.1% |
| ウ. あまり満足していない | 9 | 15.3% |
| エ. 満足していない | 7 | 11.9% |

5. 次のような制度があればよいと思いますか。(は1つのみ)

(1) 学校や課程の制度について

卒業に必要な一定数の単位を修得すれば、3年間で卒業できる制度(3修制)

| | | |
|------------|----|-------|
| ア. はい | 47 | 79.7% |
| イ. どちらでもよい | 9 | 15.3% |
| ウ. いいえ | 1 | 1.7% |

年度途中でも入学(10月)や卒業(9月)ができる制度

| | | |
|------------|----|-------|
| ア. はい | 32 | 54.2% |
| イ. どちらでもよい | 21 | 35.6% |
| ウ. いいえ | 3 | 5.1% |

日曜日だけでなく他の曜日(火・木曜日など)でもスクーリングを実施する制度(平日スクーリング)

| | | |
|------------|----|-------|
| ア. はい | 11 | 18.6% |
| イ. どちらでもよい | 24 | 40.7% |
| ウ. いいえ | 21 | 35.6% |

インターネットを使って、レポートの提出やスクーリングが受けられる制度(e-ラーニング)

| | | |
|------------|----|-------|
| ア. はい | 23 | 39.0% |
| イ. どちらでもよい | 24 | 40.7% |
| ウ. いいえ | 8 | 13.6% |

スクールカウンセラーや養護教諭の指導を受けられる制度

| | | |
|------------|----|-------|
| ア. はい | 13 | 22.0% |
| イ. どちらでもよい | 36 | 61.0% |
| ウ. いいえ | 7 | 11.9% |

普通科目を中心に、生活・福祉、自然・産業系など幅広い科目選択が可能な学科(総合学科)

| | | |
|------------|----|-------|
| ア. はい | 21 | 35.6% |
| イ. どちらでもよい | 30 | 50.8% |
| ウ. いいえ | 5 | 8.5% |

夜間ではなく、昼間に授業を行う定時制課程(昼間定時制)

| | | |
|------------|----|-------|
| ア. はい | 19 | 32.2% |
| イ. どちらでもよい | 29 | 49.2% |
| ウ. いいえ | 5 | 8.5% |

(2) 様々な単位認定の制度について

通信制に在籍しながら定時制の授業を受けられ、単位を修得できる制度(定通併修)

| | | |
|------------|----|-------|
| ア. はい | 26 | 44.1% |
| イ. どちらでもよい | 21 | 35.6% |
| ウ. いいえ | 7 | 11.9% |

高校卒業程度認定試験(旧大検)に合格すれば、その科目を卒業に必要な単位数に加えることができる制度

| | | |
|------------|----|-------|
| ア. はい | 34 | 57.6% |
| イ. どちらでもよい | 17 | 28.8% |
| ウ. いいえ | 5 | 8.5% |

学校外の学修(大学などの講座やボランティア活動など)を一定以上行えば、卒業に必要な単位数に加えることができる制度(学校外学修)

| | | |
|------------|----|-------|
| ア. はい | 27 | 45.8% |
| イ. どちらでもよい | 22 | 37.3% |
| ウ. いいえ | 6 | 10.2% |

硬筆検定や実用英語技能検定の各種検定に合格すれば、卒業に必要な単位数に加えることができる制度(技能審査)

| | | |
|------------|----|-------|
| ア. はい | 27 | 45.8% |
| イ. どちらでもよい | 25 | 42.4% |
| ウ. いいえ | 3 | 5.1% |

1.現在の生徒の状況から考えて、定時制課程における制度等の改善が必要だと思いますか。

| | | |
|---------|----|-------|
| ア. 思う | 13 | 41.9% |
| イ. やや思う | 14 | 45.2% |
| ウ. 思わない | 4 | 12.9% |

2.定時制課程の生徒にとって、次のような制度があればよいと思いますか。

(1)学校や課程の制度について

夜間ではなく、昼間に授業を行う定時制課程（昼間定時制）

| | | |
|---------|----|-------|
| ア. 思う | 5 | 16.1% |
| イ. やや思う | 14 | 45.2% |
| ウ. 思わない | 12 | 38.7% |

卒業に必要な一定数の単位を修得すれば、3年間で卒業できる制度（3修制）

| | | |
|---------|----|-------|
| ア. 思う | 16 | 51.6% |
| イ. やや思う | 10 | 32.3% |
| ウ. 思わない | 5 | 16.1% |

学年の区分がなく、単位の修得を積み重ねて卒業できる制度（単位制）

| | | |
|---------|----|-------|
| ア. 思う | 10 | 32.3% |
| イ. やや思う | 12 | 38.7% |
| ウ. 思わない | 8 | 25.8% |

2学期制により学期ごとに単位認定し、年度途中でも入学（10月）や卒業（9月）ができる制度

| | | |
|---------|----|-------|
| ア. 思う | 4 | 12.9% |
| イ. やや思う | 10 | 32.3% |
| ウ. 思わない | 17 | 54.8% |

普通科目を中心に、生活・福祉、自然・産業系など幅広い科目選択が可能な学科（総合学科）

| | | |
|---------|----|-------|
| ア. 思う | 9 | 29.0% |
| イ. やや思う | 10 | 32.3% |
| ウ. 思わない | 12 | 38.7% |

(2)様々な単位認定の制度について

通信制課程を利用して単位を修得すれば、卒業に必要な単位数に加えることができる制度（定通併修）

| | | |
|---------|----|-------|
| ア. 思う | 10 | 32.3% |
| イ. やや思う | 14 | 45.2% |
| ウ. 思わない | 7 | 22.6% |

他の学校の授業を受けて単位を修得すれば、卒業に必要な単位数に加えることができる制度（学校間連携）

| | | |
|---------|----|-------|
| ア. 思う | 6 | 19.4% |
| イ. やや思う | 8 | 25.8% |
| ウ. 思わない | 17 | 54.8% |

高校卒業程度認定試験（旧大検）に合格すれば、その科目を卒業に必要な単位数に加えることができる制度

| | | |
|---------|----|-------|
| ア. 思う | 15 | 48.4% |
| イ. やや思う | 10 | 32.3% |
| ウ. 思わない | 6 | 19.4% |

学校外の学修（大学などの講座やボランティア活動など）を一定以上行えば、卒業に必要な単位数に加えることができる制度（学校外学修）

| | | |
|---------|----|-------|
| ア. 思う | 9 | 29.0% |
| イ. やや思う | 11 | 35.5% |
| ウ. 思わない | 9 | 29.0% |

電気工士や簿記等の各種検定に合格すれば、卒業に必要な単位数に加えることができる制度（技能審査）

| | | |
|---------|----|-------|
| ア. 思う | 15 | 48.4% |
| イ. やや思う | 8 | 25.8% |
| ウ. 思わない | 6 | 19.4% |

一定の条件を満たして就労すれば、卒業に必要な単位数に加えることができる制度（実務代替）

| | | |
|---------|----|-------|
| ア. 思う | 9 | 29.0% |
| イ. やや思う | 7 | 22.6% |
| ウ. 思わない | 13 | 41.9% |

1. 現在の生徒の状況から考えて、通信制課程における制度等の改善が必要だと思いますか。

| | | |
|---------|---|-------|
| ア. 思う | 5 | 55.6% |
| イ. やや思う | 4 | 44.4% |
| ウ. 思わない | 0 | 0.0% |

2. 通信制課程の生徒にとって、次のような制度があればよいと思いますか。

(1) 学校や課程の制度について

卒業に必要な一定数の単位を修得すれば、3年間で卒業できる制度（3修制）

| | | |
|---------|---|-------|
| ア. 思う | 8 | 88.9% |
| イ. やや思う | 1 | 11.1% |
| ウ. 思わない | 0 | 0.0% |

2学期制により学期ごとに単位認定し、年度途中でも入学（10月）や卒業（9月）ができる制度

| | | |
|---------|---|-------|
| ア. 思う | 2 | 22.2% |
| イ. やや思う | 1 | 11.1% |
| ウ. 思わない | 6 | 66.7% |

日曜日だけでなく他の曜日（火・木曜日など）でもスクーリングを実施する制度（平日スクーリング）

| | | |
|---------|---|-------|
| ア. 思う | 3 | 33.3% |
| イ. やや思う | 5 | 55.6% |
| ウ. 思わない | 1 | 11.1% |

インターネットを使って、レポートの提出やスクーリングが受けられる制度（e-ラーニング）

| | | |
|---------|---|-------|
| ア. 思う | 0 | 0.0% |
| イ. やや思う | 7 | 77.8% |
| ウ. 思わない | 2 | 22.2% |

スクールカウンセラーや養護教諭の指導を受けられる制度

| | | |
|---------|---|-------|
| ア. 思う | 6 | 66.7% |
| イ. やや思う | 3 | 33.3% |
| ウ. 思わない | 0 | 0.0% |

普通科目を中心に、生活・福祉、自然・産業系など幅広い科目選択が可能な学科（総合学科）

| | | |
|---------|---|-------|
| ア. 思う | 1 | 11.1% |
| イ. やや思う | 3 | 33.3% |
| ウ. 思わない | 5 | 55.6% |

夜間ではなく、昼間に授業を行う定時制課程（昼間定時制）

| | | |
|---------|---|-------|
| ア. 思う | 2 | 22.2% |
| イ. やや思う | 4 | 44.4% |
| ウ. 思わない | 3 | 33.3% |

(2) 様々な単位認定の制度について

通信制に在籍しながら定時制の授業を受けられ、単位を修得できる制度（定通併修）

| | | |
|---------|---|-------|
| ア. 思う | 2 | 22.2% |
| イ. やや思う | 4 | 44.4% |
| ウ. 思わない | 3 | 33.3% |

高校卒業程度認定試験（旧大検）に合格すれば、その科目を卒業に必要な単位数に加えることができる制度

| | | |
|---------|---|-------|
| ア. 思う | 3 | 33.3% |
| イ. やや思う | 3 | 33.3% |
| ウ. 思わない | 3 | 33.3% |

学校外の学修（大学などの講座やボランティア活動など）を一定以上行えば、卒業に必要な単位数に加えることができる制度（学校外学修）

| | | |
|---------|---|-------|
| ア. 思う | 0 | 0.0% |
| イ. やや思う | 3 | 37.5% |
| ウ. 思わない | 5 | 62.5% |

硬筆検定や実用英語技能検定などの各種検定で資格を取得すれば、卒業に必要な単位数に加えることができる制度（技能審査）

| | | |
|---------|---|-------|
| ア. 思う | 0 | 0.0% |
| イ. やや思う | 5 | 62.5% |
| ウ. 思わない | 3 | 37.5% |

県外学校視察の概要

富山県立志貴野高等学校

平成17年8月8日(月) 14:00～16:10 視察：協議会委員7名、事務局2名

(1) 学校の概要

単位制、3部制、3修制の定時制独立校であり、普通科、情報ビジネス科、生活文化科、国際教養科を設置している。平成16年に県や市の生涯学習施設を併設した高岡駅前再開発ビル内に移転し、生涯学習校としての役割も果たしている。

(2) 対応 同校校長、教頭等

(3) 学校の状況

交通面での利便性があり、近代的な施設・設備、生徒のライフスタイルに対応した多様な学習システムや聴講制度(特別講座)などの学習環境が整備されており、現校舎に移転後は目的意識をもって入学する生徒が増加している。

また、不登校経験者に対応するため、スクールカウンセラーを配置し、心に問題を持っている生徒がゆったりと少人数で学べる学校づくりや、ボランティアやアルバイトを奨励するなど地域と連携して生徒を育成している。

さらに、特別講座を設けて高校の授業に社会人を受け入れている。

石川県立金沢中央高等学校

平成17年8月9日(火) 9:30～11:20 視察：協議会委員7名、事務局2名

(1) 学校の概要

単位制、3部制、3修制の定時制独立校であり、平成16年に総合学科を設置し、現在は、総合学科(1、2年生)普通科、技術科、情報流通科(3、4年生)を設置している。また、高校生適応指導教室と栄養関係の女子専門学校(16年度募集停止)を併設している。

(2) 対応 同校教務主任

(3) 学校の状況

従来の学科構成では多様化する生徒のニーズに対応できず、単位制の持ち味が十分発揮できないため、昼間制午後部を廃止し、昼間制中間部(3～6限、10:30～14:45)を新設するとともに、総合学科に改編した。

中間部は不登校などで朝が苦手な生徒に対応しており、午前部(1～4限、8:40～12:20)の1、2限やサポートアンドチャレンジタイム(7、8限、14:55～16:35)の授業を受けることも可能である。

中学で不登校傾向があった生徒も出席率がよく、生徒は「やり直せる場所であり、リセットできる」と評価している。

大阪府立桜塚高等学校

平成18年8月9日(水) 13:45～15:40 視察：協議会委員8名、事務局2名

(1) 学校の概要

全日制と夜間定時制が併置されており、府立高校の再編整備計画により、平成17年度から単位制、2学期制を実施している。文部科学省の「定時制・通信制ステップ・アップ事業」の指定校である。

(2) 対応 同校教頭

(3) 学校の状況

始業前授業や定通併修による3修制を実施している。生徒の興味・関心に応じて2年次から体育類型、教養・芸術類型、情報類型に分かれ、多様な科目を学習できるようになっている。また、部活動も活発に行われている。さらに、一般の人も受講できる土曜開放講座を開講している。HR教室や特別教室などは全日制と共用しているが、保健室は定時制専用のものがあり、生徒の相談活動に活用している。

兵庫県立青雲高等学校

平成18年8月10日(木) 13:00～14:35 視察：協議会委員9名、事務局2名

(1) 学校の概要

普通科の通信制高校であり、長田高校(全日制)、長田商業高校(定時制)と同一校地に設置されている。平日スクーリングや、遠方の生徒のために協力校2校と連携して通信教育を行っている。

(2) 対応 同校校長、教頭等

(3) 学校の状況

校長室、事務室、職員室、保健室等は専用であるが、HR教室は長田高校(全日制)と共用である。学校行事や施設使用についての調整は難しいが、3校が協力して学校の運営を行っている。e-ラーニングを活用したレポートの解説やテスト対策の指導、Eメールによる生徒との連絡などを行っている。また、生徒指導面においては、家庭や関係機関との連携、カウンセリングの充実を目指している。

兵庫県立長田商業高等学校

平成18年8月10日(木) 14:45～15:40 視察：協議会委員9名、事務局2名

(1) 学校の概要

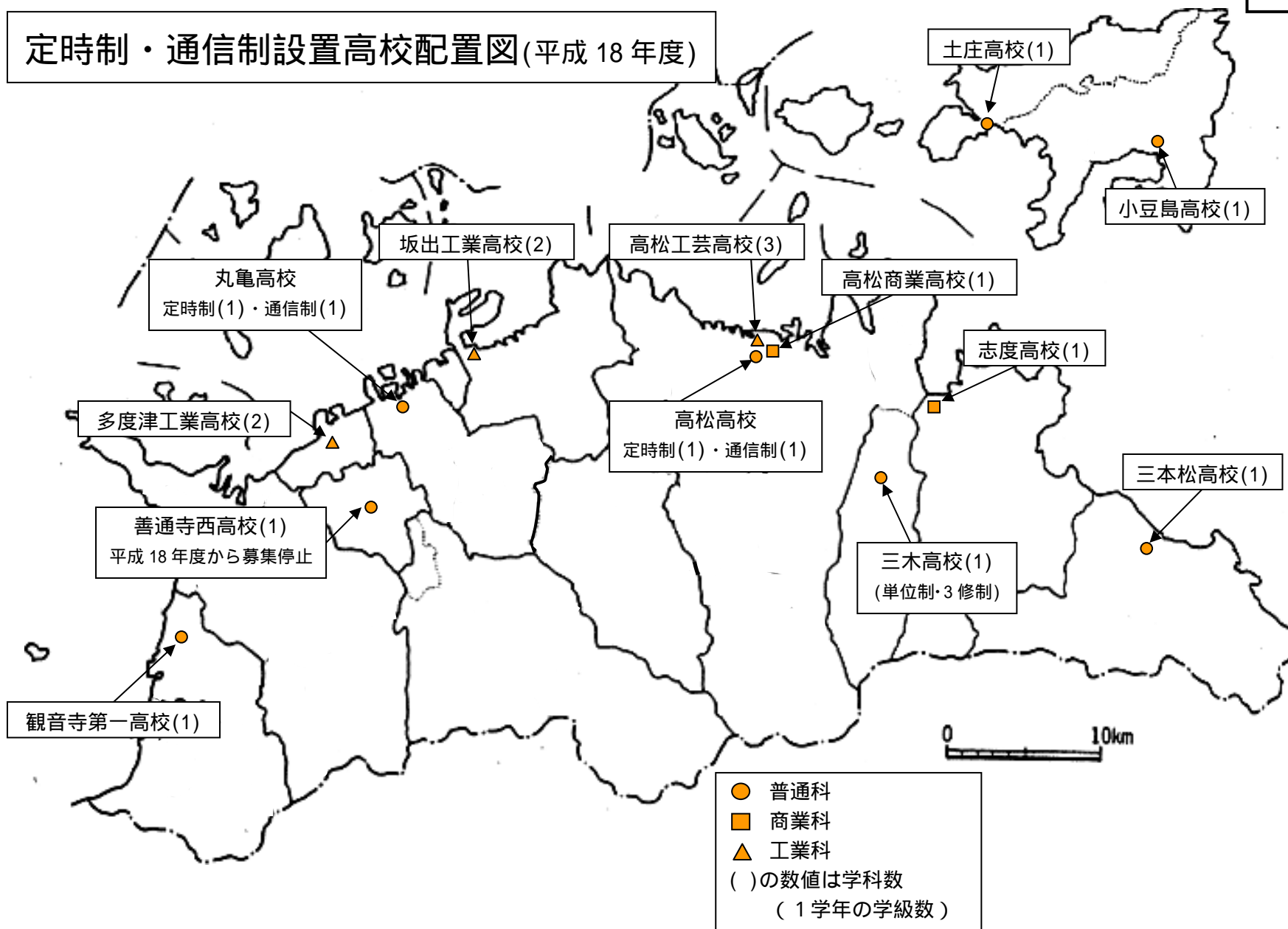
商業科の定時制高校であり、長田高校(全日制)、青雲高校(通信制)と同一校地にある。単位制、始業前授業や定通併修による3修制を実施している。また、高校卒業者を対象に、情報処理や簿記の資格取得を目指し、2年間で卒業する情報・経理専修コースを設置している。

(2) 対応 同校教頭、教育課程部長等

(3) 学校の状況

資格取得を奨励しており、4年間でじっくりと資格取得を目指す生徒が多い。国語、英語、数学、商業などで習熟度別の少人数授業、商業でチームティーチングによる授業を取り入れている。また、教科の学習だけでなく、商店街での模擬店による販売実習を行うなど体験的な取り組みを実施している。施設面では、専用のコンピュータ室や総合実践室等があるが、HR教室は長田高校(全日制)と共用である。

定時制・通信制設置高校配置図(平成 18 年度)



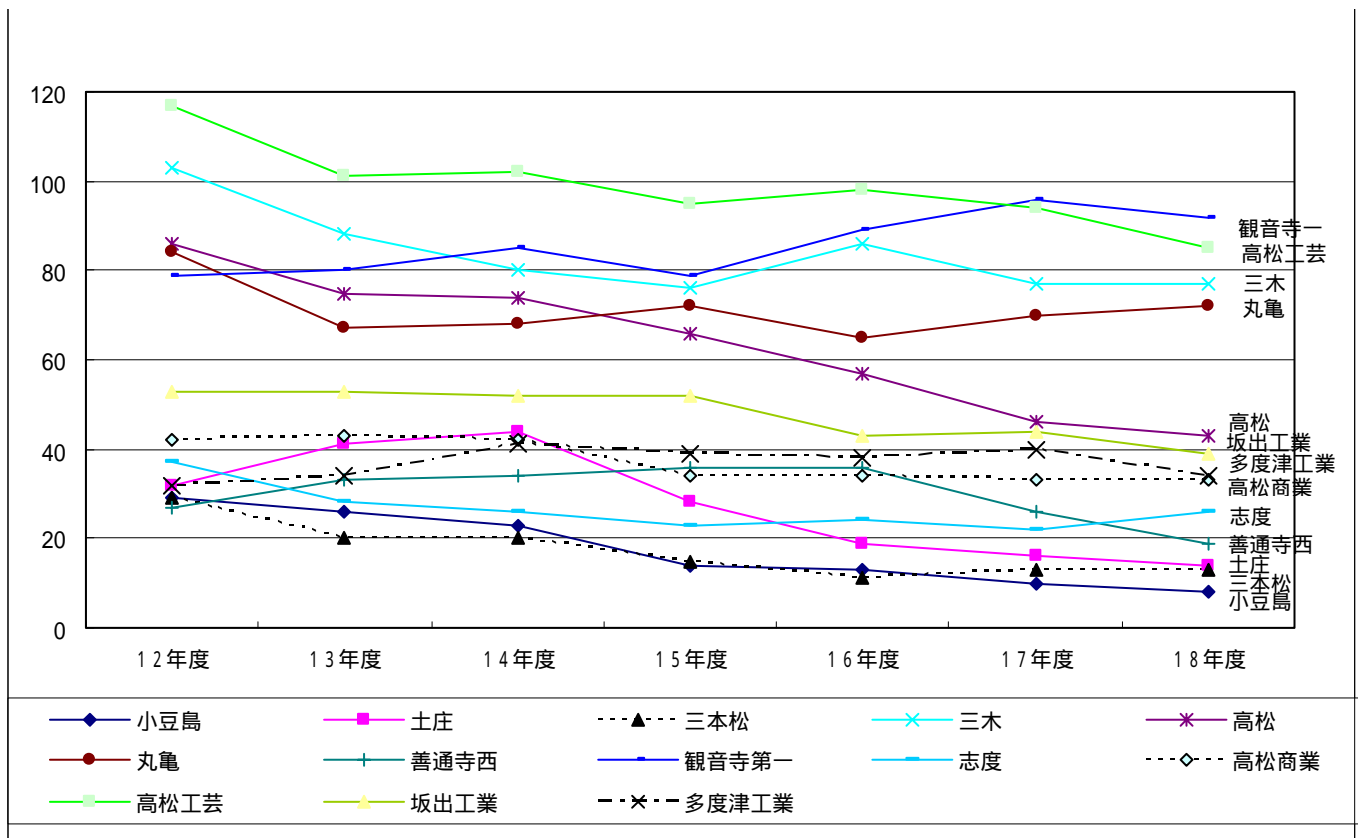
定時制・通信制課程在籍生徒数の推移（学校別）

定時制課程

毎年5月1日現在

| 地域 | 学校名 | 大学科 | 小学科 | 学級数 1～4年 | 定員 1～4年 | 平成 12年度 | 13年度 | 14年度 | 15年度 | 16年度 | 17年度 | 18年度 |
|------------|-------|-----|-------|-------------|------------|------------|------|------|------|------|------|------|
| 小豆 | 小豆島 | 普通 | | 4 | 160 | 29 | 26 | 23 | 14 | 13 | 10 | 8 |
| | 土庄 | 普通 | | 4 | 160 | 32 | 41 | 44 | 28 | 19 | 16 | 14 |
| 東か・ さぬき | 三本松 | 普通 | | 4 | 160 | 29 | 20 | 20 | 15 | 11 | 13 | 13 |
| | 志度 | 商業 | 商業 | 4 | 160 | 37 | 28 | 26 | 23 | 24 | 22 | 26 |
| 高松 | 三木 | 普通 | | 4 | 160 | 103 | 88 | 80 | 76 | 86 | 77 | 77 |
| | 高松 | 普通 | | 4 | 160 | 86 | 75 | 74 | 66 | 57 | 46 | 43 |
| | 高松工芸 | 工業 | 機・建・工 | 12 | 480 | 117 | 101 | 102 | 95 | 98 | 94 | 85 |
| | 高松商業 | 商業 | 商業 | 4 | 160 | 42 | 43 | 42 | 34 | 34 | 33 | 33 |
| 中讃 | 坂出工業 | 工業 | 機・電 | 8 | 320 | 53 | 53 | 52 | 52 | 43 | 44 | 39 |
| | 丸亀 | 普通 | | 4 | 160 | 84 | 67 | 68 | 72 | 65 | 70 | 72 |
| | 善通寺西 | 普通 | | 4 | 160 | 27 | 33 | 34 | 36 | 36 | 26 | 19 |
| | 多度津工業 | 工業 | 機・電 | 8 | 320 | 32 | 34 | 41 | 39 | 38 | 40 | 34 |
| 三・観 | 観音寺第一 | 普通 | | 4 | 160 | 79 | 80 | 85 | 79 | 89 | 96 | 92 |
| 合 計 | | | | 68 | 2,720 | 750 | 689 | 691 | 629 | 613 | 587 | 555 |

学級数及び定員は、平成12年度から平成18年度のものである。ただし、善通寺西高校は平成18年度からの生徒の募集停止により、平成18年度は学級数が3、定員が120である。



通信制課程

| 地域 | 学校名 | 大学科 | 小学科 | 定員 1～4年 | 平成 12年度 | 13年度 | 14年度 | 15年度 | 16年度 | 17年度 | 18年度 |
|-----|-----|-----|-----|------------|------------|------|------|------|------|------|------|
| 高松 | 高松 | 普通 | | 500 | 379 | 353 | 314 | 321 | 341 | 334 | 335 |
| 中讃 | 丸亀 | 普通 | | 500 | 418 | 444 | 450 | 463 | 435 | 417 | 366 |
| 合 計 | | | | 1,000 | 797 | 797 | 764 | 784 | 776 | 751 | 701 |

「県立高校の再編整備基本計画（平成17年度～平成22年度）」（抜粋）

定時制課程、通信制課程の再編

定時制課程及び通信制課程は、昭和23年の制度発足以来、主として働きながら学ぼうとする青少年に、後期中等教育の機会を保障する上で大きな役割を果たしてきた。近年、生徒数が減少する一方で、さまざまな就業形態や学習歴をもつ生徒が多く入学してきていることから、今後、勤労青少年が高校教育を受ける機関としての役割だけでなく、生徒の実態等に応じた新たな役割を果たすことが求められている。こうした状況を踏まえて、平成12年8月の「県立高校の学校・学科の在り方検討会議」の報告書では、今後の定時制課程の在り方について、情報化の進展に伴う専門教育の充実や単位制の導入、昼間授業の実施など弾力的な学習形態の実現を可能な限り早期に図ることが望ましいとされている。

現在、三木高校の定時制課程では、同課程単独で利用できる教室を有し、生徒の多様な学習ニーズに適切に対応できるよう、単位制の導入や始業前授業の実施により修業年限3年で卒業できるようになっており、比較的広い範囲から生徒が入学し、他校に比べ定員充足率も高くなっている。こうしたことから、今後、このような弾力的な学習形態を選択する機会を拡大していく必要性が高まっていると考えられる。

また、情報化の進展等に対応した専門教育の充実、多様な生徒に対応した教育課程の編成、部活動や学校行事の充実等を図るためには、一定の生徒数を確保することが必要である。

以上のような弾力的な学習形態を選択する機会の拡大や教育活動の充実の観点から、第1学区の三木高校の定時制課程と同様の学習形態を第2学区においても提供できるよう定時制課程の再編を進める。

また、生徒の志願状況の推移をみながら、通学の便にも配慮し、県下全体の定時制課程・通信制課程の適正配置について継続的に検討する。

教育課程(3修制)のモデル

普通科

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
|-----|--------------------|---|--------------------|---|----------------|---|---------------------|---|-----------------------|----|-----------------------------------|-------------|-----------------------------|--------------------------|-------------|-------------------------|--|-------------|-------------|---------------------------------|-----------|---------------------------------|---------------------------|-----------------------------------|---------------------------------|----|-----------------------------------|----|-------------|----|
| 1年次 | 国語総合 (4) | | | | 数学 (2) | | 理科総合A (2) | | 体育 (2) | | 保健 (1) | 家庭基礎 (2) | | 英語 (3) | | | 情報A (2) | | 総合学習 (1) | HR (1) | 体育 (2) | | 国語入門 (2) | | 数学入門 (2) | | 英語入門 (2) | | 時事研究 (2) | |
| 2年次 | 現代文 (2) | | 世界史A (2) | | 現代社会 (2) | | 数学 (2) | | 体育 (2) | | 保健 (1) | 芸術 (2) | | 国語表現 数学A OC (2) | | 生物 簿記 (古典) (3) | | 総合学習 (1) | HR (1) | 数学 化学 商品と流通 (3) | | | 生物 リーディング 簿記 (3) | | フードデザイン 芸術 ビジネスマナー (2) | | 家庭看護・福祉 文書デザイン 暮らしと法 (2) | | | |
| 3年次 | 現代文 (2) | | 日本史A 地理A (3) | | 体育 (2) | | 政治経済 情報処理 (3) | | 数学 化学 英語 (3) | | 国語表現 数学A OC 発達と保育 (2) | | 生物 古典 簿記 簿記 (3) | | 総合学習 (1) | HR (1) | 数学 化学 商品と流通 (3) | | | 生物 リーディング 簿記 簿記 (3) | | フードデザイン 芸術 ビジネスマナー (2) | | 家庭看護・福祉 文書デザイン 暮らしと法 (2) | | | | | | |
| 4年次 | 日本史A 地理A (3) | | 体育 芸術 (2) | | ビジネスマナー (2) | | 政治経済 情報処理 (3) | | 数学 化学 英語 (3) | | 国語表現 数学A OC 発達と保育 (2) | | 生物 古典 簿記 簿記 (3) | | 総合学習 (1) | HR (1) | 網掛けは必修科目を表す。 印は学校設定科目を表す。 [地域、学校の実態等に応じて学校が] 独自に設ける科目 | | | | | | | | | | | | | |

34

高校では、すべての生徒が学習すべき必修科目を含め、74単位以上を修得すれば卒業が認定される。(その単位数は各学校が定める)
 単位制では、学年による教育課程の区分を設けませんが、必修科目も多いため、自由に科目を選択できるわけではない。
 表中の1~20は通常の4年制課程で履修するものであり、21~30を選択して履修すると3年での卒業が可能となる。
 基礎学力の定着を目的とする学校設定科目や、社会で役立つ実用的な商業や家庭の科目を開設した。
 興味・関心や進路希望に応じて科目を選択できる。(下表参照)

| 多く学習する科目 | 科目名 | 国・社・英 | 理・数 | 商業 | 家庭 | 保体・芸・情 |
|----------|-------------------------|-------|-----|----|----|--------|
| 文系の科目 | 国語表現、古典、政治経済、OC、英語 など | 40 | 13 | 10 | 4 | 16 |
| 理系の科目 | 数学A、数学、化学、生物 など | 38 | 18 | 7 | 4 | 16 |
| 商業の科目 | 簿記、情報処理、商品と流通、文書デザインなど | 34 | 13 | 18 | 2 | 16 |
| 家庭の科目 | 発達と保育、フードデザイン、家庭看護・福祉など | 38 | 13 | 8 | 8 | 16 |

教育課程(3修制)のモデル

工業科(機械科)

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
|-----|-------------|-------------|--------------|-------------|-------------|-------------|---------------|----------------------|---------------|-------------|------------|---------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 1年次 | 国語総合 (2) | 現代社会 (2) | 数学 (2) | 理科基礎 (2) | 体育 (2) | 保健 (1) | OC (2) | 工業技術基礎 (2) | 情報技術基礎 (2) | 機械工作 (2) | HR (1) | 体育 (2) | 国語入門 (2) | 数学入門 (2) | 英語入門 (2) | 機械設計 (2) | | | | | | | | | | | | | | |
| 2年次 | 国語総合 (2) | 数学 (2) | 理科総合A (3) | 体育 (2) | 保健 (1) | 芸術 (2) | 工業技術基礎 (2) | 実習 (3) | 機械工作 (2) | HR (1) | 地理A (2) | 数学演習 英語演習 (2) | 実習 (2) | 機械設計 (2) | 原動機 (2) | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3年次 | 国語表現 (2) | 世界史A (2) | 数学 (2) | 体育 (2) | 家庭基礎 (2) | 実習 (3) | 製図 (2) | 機械設計 自動車工学 (2) | 原動機 (2) | HR (1) | 数学 (2) | 物理 (2) | 課題研究 (3) | 製図 (3) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4年次 | 地理A (2) | 数学 (2) | 体育 (2) | 課題研究 (3) | 実習 (3) | 機械設計 (2) | 原動機 (2) | 製図 (3) | HR (1) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

工業科目の
単位数合計

4修制 3修制
35 36

工業科(電気科)

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | |
|-----|-------------|-------------|--------------|-------------|-------------|-----------|---------------|---------------|---------------|-------------|------------|---------------------|-------------|-------------|-------------|---------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|--|
| 1年次 | 国語総合 (2) | 現代社会 (2) | 数学 (2) | 理科基礎 (2) | 体育 (2) | 保健 (1) | OC (2) | 工業技術基礎 (2) | 情報技術基礎 (2) | 電気基礎 (2) | HR (1) | 体育 (2) | 国語入門 (2) | 数学入門 (2) | 英語入門 (2) | 情報技術基礎 (2) | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2年次 | 国語総合 (2) | 数学 (2) | 理科総合A (3) | 体育 (2) | 保健 (1) | 芸術 (2) | 工業技術基礎 (2) | 実習 (2) | 電気基礎 (3) | HR (1) | 地理A (2) | 数学演習 英語演習 (2) | 実習 (2) | 製図 (2) | 電力技術 (2) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3年次 | 国語表現 (2) | 世界史A (2) | 数学 (2) | 体育 (2) | 家庭基礎 (2) | 実習 (3) | 電気基礎 (2) | 電気機器 (2) | 電力技術 (2) | HR (1) | 数学 (2) | 物理 (2) | 課題研究 (3) | 電気機器 (1) | 電子技術 (2) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4年次 | 地理A (2) | 数学 (2) | 体育 (2) | 課題研究 (3) | 実習 (2) | 製図 (2) | 電気機器 (2) | 電力技術 (2) | 電子技術 (2) | HR (1) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

工業科目の
単位数合計

4修制 3修制
35 36

網掛けは必履修科目を表す。
印は学校設定科目を表す。
太枠は工業の専門科目を表す。

専門教育を主とする学科においては、専門教育に関する教科・科目をすべての生徒に25単位以上履修させなければならない。

定時制・通信制ステップ・アップ協議会協議経過

平成17年度

- 第1回会議（平成17年7月1日（金））
会長・副会長の選任
協議会の公開、非公開
定時制・通信制課程の現状と課題
- 第2回会議（平成17年8月8日（月） 9日（火））
学校訪問 富山県立志貴野高等学校
石川県立金沢中央高等学校
- 第3回会議（平成17年10月11日（火）） 香川県立三木高等学校
授業参観
生徒に関する調査について
- 第4回会議（平成17年12月15日（木））
これからの定時制・通信制課程の役割
- 第5回会議（平成18年2月10日（金））
これからの定時制・通信制課程の役割

実践研究報告書（中間まとめ） 平成18年3月発行

平成18年度

- 第6回会議（平成18年5月8日（月））
定時制・通信制課程の再編の在り方
- 第7回会議（平成18年6月13日（火））
定時制・通信制課程の再編の在り方
- 第8回会議（平成18年8月9日（水） 10日（木））
学校訪問 大阪府立桜塚高等学校
兵庫県立青雲高等学校 兵庫県立長田商業高等学校
- 第9回会議（平成18年10月25日（水））
研究委員会からの報告（教育課程（3修制）のモデル 等）
協議会のまとめに向けて
- 第10回会議（平成18年12月19日（火））
報告書骨子（案）について
- 第11回会議（平成19年2月14日（水））
報告書（案）について

定時制・通信制ステップ・アップ協議会設置要綱

(設置)

第1条 文部科学省から定時制・通信制ステップ・アップ事業の委嘱を受け、本県における県立高校の定時制・通信制課程の在り方について検討するため、定時制・通信制ステップ・アップ協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(検討事項)

第2条 協議会は、県立高校の定時制・通信制課程における学習形態の弾力化・多様化の研究を踏まえた再編整備に関する諸問題について調査・検討し研究報告書にまとめるとともに、その結果を県教育委員会教育長にも報告する。

(組織)

第3条 協議会は、教育長が委嘱する10人以内の委員をもって組織する。

2 協議会には、委員の互選により会長及び副会長を各1名置く。

3 実践研究地域は中讃地域とし、研究中心校は香川県立丸亀高等学校とする。

4 実践研究地域においては、関係高等学校の教頭などによる研究委員会を設置し、実践的な研究を行う。

(職務)

第4条 会長は、協議会の会務を総理し、協議会を代表する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 協議会の会議は会長が招集し、その議長となる。

2 会長は、必要があると認めるときには、委員以外の者に協議会への出席を求め、その意見を聴取することができる。

(庶務)

第6条 協議会の庶務は、香川県教育委員会事務局高校教育課において処理する。

(補則)

第7条 この要綱において定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は会長が別に定める。

附 則

1 この要綱は、平成17年7月1日から施行する。

2 この要綱は、平成19年3月31日限り、その効力を失う。

委員名簿

定時制・通信制ステップ・アップ協議会

現委員

印 会長

印 副会長

(会長・副会長以外は五十音順)

| 氏 名 | 役 職 名 等 | 委嘱年月日 |
|-------|-----------------------------|-----------|
| 妻鳥 敏彦 | 香川大学名誉教授 | H17. 7. 1 |
| 関 博徳 | 元県立高等学校長(人事委員) | 同 上 |
| 伊原 佳子 | 多度津商工会議所女性会長、多度津工業高等学校学校評議員 | 同 上 |
| 十河 秀雄 | 香川県立丸亀高等学校長 | H18. 4. 1 |
| 高嶋 初子 | 柴田整形外科クリニック職員 | H17. 7. 1 |
| 東条 正幸 | 高松工芸高等学校長(県高等学校教育研究会定通部会長) | H18. 4.11 |
| 錦 美弥子 | 前香川県PTA連絡協議会副会長 | H17. 7. 1 |
| 西原 弘昌 | 前香川県高等学校PTA連合会理事 | 同 上 |
| 古川 信子 | 臨床心理士(スクールカウンセラー) | 同 上 |
| 森 義治 | 東かがわ市立大川中学校長(県中学校長会進路対策部会長) | H18. 4.13 |

退任委員

(五十音順)

| 氏 名 | 委員委嘱時の役職名等 | 委嘱期間 |
|-------|------------------------------|-------------------------|
| 荒井 修二 | 香川県立三木高等学校長(県高等学校教育研究会定通部会長) | H17. 7. 1~ H18.4.10 |
| 高木 泰造 | 香川県立丸亀高等学校長 | H17. 7. 1~ H18. 3.31 |
| 薬師 正明 | 坂出市立白峰中学校長(県中学校長会進路対策部会長) | H17. 7. 1~ H18. 4.12 |

定時制・通信制ステップ・アップ研究委員会

現委員

| 氏 名 | 勤 務 先 ・ 職 名 | 任命年月日 |
|-------|------------------|-----------|
| 安藤 航二 | 香川県立坂出工業高等学校・教頭 | H17. 7. 1 |
| 藤沢 英治 | 香川県立丸亀高等学校・教頭 | 同 上 |
| 行成 啓介 | 香川県立丸亀高等学校・教頭 | 同 上 |
| 久保 義弘 | 香川県立善通寺西高等学校・教頭 | H18. 4. 1 |
| 未継 俊雄 | 香川県立多度津工業高等学校・教頭 | 同 上 |

退任委員

| 氏 名 | 委員任命時の勤務先・職名 | 任命期間 |
|-------|------------------|-------------------------|
| 竹本 恵一 | 香川県立善通寺西高等学校・教頭 | H17. 7. 1~ H18. 3.31 |
| 渡邊 晋二 | 香川県立多度津工業高等学校・教頭 | 同 上 |

この報告書について、ご意見等がございましたら、下記までご連絡ください。

香川県教育委員会事務局高校教育課

高校教育改革グループ

電 話：087-832-3752

F A X：087-837-2964

メール：kokoyoiku@pref.kagawa.lg.jp